活気あふれる地域　城北

優良企業集積、創業・起業も活発

東京都板橋区、北区、杉並区、豊島区、中野区、練馬区で構成される城北地区は都内でも有数の産業集積地だ。中でも板橋区を中心とした周辺地域は製造業が盛んで、高い技術を持ち、独創性や革新性を備えた企業が多い。板橋区は2010年の工業統計調査で、製造品出荷額等が大田区を抜いて23区の中で1位に躍り出るなど、元気な地域だ。また、中野区では再開発地区に栗田工業が本社を移転した。今春にはキリンホールディングスやそのグループ企業が移転し、明治大学や帝京平成大学がキャンパスを新設するなど街が活気づいている。こうしたことを背景に、行政も地元企業への支援を強化し、産業振興を図っている。また、創業・起業の動きも目立っている。企業の経営改善や創業・起業支援を手がける板橋区立企業活性化センターの中嶋修センター長に話を聞いた。

創業支援と経営改善支援で実績
全国ナンバーワン目指す

インタビュー

東京都板橋区立企業活性化センター長　中嶋　修氏

女性・若者の情熱に期待
貴重な経営資源守る

―板橋区立企業活性化センターでは地域の企業に対してどのような支援をしていますか。

「センターでは主に創業・起業支援と経営改善を手がけている。センター内にはシェアードオフィスとスタートアップオフィスがあり、インキュベーション機能を果たしている。現在、約25社が入居しており、会社を設立するなどして巣立っていった企業は116社にものぼる。また、企業セミナーも年に数回開催している。女性向け起業セミナーも毎年開催しており、多数の申し込みがある」

―最近の城北地区の創業・起業の状況を教えてください。

「区内には創業希望者が増えてきている。製造業の創業もある。中でも女性の起業が多いことが特徴だ。センターに来た相談者やセミナーの参加者は板橋区の創業支援ネットワークに登録し、行政や金融機関、地元産業界などからの支援を受けられる。登録者約950人のうち、女性は約380人と多い」

―女性の創業にはどのような特徴がありますか。

「自分の技術やアイデア、資格やキャリアを生かして創業したいという女性が多い。子育てを終えて何かやってみようとする人も多い。若い女性の創業も目立っている。男性に比べると情熱があって、積極的な人が多いと感じる」

―女性起業の成功例はありますか。

「成功例はたくさんある。ある女性は、起業に向けた準備をきちんとして、会社を設立し、まず飲食店を開業した。工場地域には食事をとれる店が少ない点に着目して、店舗の場所に地元の工場集積地を選んだ。店はすぐに繁盛し、元々の本業であったタイヤ販売業と飲食業を両立させながら、海外進出にも着手している。しっかりとした準備と、地域性を生かしたビジネスモデルが成功につながった。また、下着メーカーに勤めていた女性は、高齢者向けの下着を開発したいと起業した。転倒骨折予防の下着を製品化し、軌道に乗っている」

―起業を成功させるために必要なことは何ですか。

「きちんとした創業計画と自己資金は絶対に必要だ。創業計画は本人と我々が一緒になって作りあげていく。あとは経営者の重みや、責任をとるという覚悟も必要不可欠だ。安易な創業はさせない。計画に無理がないよう、時間をかけて準備する。日本では創業のうち7割が失敗するといわれているが、区内の創業はもっと成功率が高い」

―センターでは今後どのような支援をしていきますか。

「国も『地域需要創造型等起業・創業促進補助金』を2012年度の補正予算で計上し、女性や若者の起業を支援することで地域需要を興す施策を進めている。我々もこうした創業支援をさらに進めていく。また、支援企業の海外展開も支援していきたい」

―経営改善ではどのような取り組みをしていますか。

「リーマンショック後の緊急経済対策の一環として『経営改善チーム』を立ち上げた。税理士や弁護士、中小企業診断士など各分野の専門家らがチームの相談員となり、相談企業の経営改善に取り組んでいる。これまでに約200件の経営改善を実施している。我々行政や金融機関が一体となり、全力で支援するべきだ」

―中小企業金融円滑化法が今年度末で廃止されることで、中小企業の資金繰りが心配されています。センターでは今月から経営改善特別相談窓口を設置しました。

「窓口開設後、毎日のように多くの相談申し込みの電話がかかってきている。中小企業を取り巻く環境は深刻で、悩みは多様化している。親身になって対応していかなければならない。我々はどんな企業でもしっかりと支援していく」

―最後に城北地区の企業へエールを。

「この辺りの企業は貴重な経営資源を持っている。そうした資源を守っていくことが必要だ。我々行政も支援していくので、経営者の皆さんにはぜひ頑張ってもらいたい」

国際会議開催　弾みに　東京都板橋区

光学関連産業　活性化へ
産学連携を強化

東京都板橋区は応用物理学会の分科会である日本光学会光設計研究グループ（ODG）と、2014年2月12―14日に光学・レンズ設計製造に関する国際会議「ODF」を区内で開催する。坂本健区長が昨年7月にロシア・サンクトペテルブルクで開催された同会議に出席し、招致活動を行ったことなどが板橋での開催に結びついた。同区では国際会議の開催を契機として、地場産業である光学関連産業を活性化させようと、さまざまな施策を打ち出している。

その一つが産学連携の強化だ。12年12月には区内に分所を構える理化学研究所（理研）と光学・医療部品の研究開発について提携を結んだ。共同研究では、理研基幹研究所大森素形材工学研究室が開発した電解インプロセスドレッシング（ELID）研削法などの光学関連技術や加工ノウハウを区内企業が長期にわたって活用できるよう環境整備を進めていく。将来は加工技術を生かして人工関節や太陽光発電分野にも展開していきたい考えだ。新製品の開発や企業の技術者への研修、技術指導も進めていく。共同研究期間は17年10月末までだが、5年単位で延長できるようにするなど、息の長い取り組みとしていく。

また、以前から接点のあった宇都宮大学とも連携を強化している。同大学のオプティクス教育研究センターが主催する光学関連技術者の交流・勉強会「UUOサロン」を12年12月に区内で開催。過去3回は同大学で開催していたが、都内で開催したいという同センターの要望に応えて初の板橋開催となった。板橋での開催は都内の技術者とも交流できて好評だったため、今後も随時板橋で開催していく予定だ。

板橋区は戦前に軍需工場が多く建設され、戦後も光学や精密機器を手がける町工場が多く残り、高い技術を持った職人たちも多い。光学産業が最も盛んだった60年代には日本から輸出された光学機器製品の70％が板橋から出荷されたという。海外では「メード・イン・ジャパン」よりも「メード・イン・イタバシ」の方が有名だったというほど光学の板橋が広く知られていた。また、国産の写真用フィルムが初めて製造されたのも板橋だ。クイックリターンミラーとペンタプリズムを備えた一眼レフカメラの原型ともいえるカメラ「アルタイル」を大手メーカーに先駆けて開発した中小企業も現れた。現在でも、国産一眼レフのパイオニアと言われる旭光学工業（現ペンタックスリコーイメージング）やトプコンなどの大手光学メーカーが板橋に本社を置いている。

ODF開催まで約1年に迫った1月31日には、ODGの研究会を「プレODF」として開催した。初めて海外から講演者を招き、約100人の出席者がドイツやロシア、イタリアの光学技術者や研究者らの話を聞いた。同区では来年のODFの開催に向けて、今後も区内光学産業の活性化を後押ししていく。

1月に開催された「プレODF」ではドイツ・カールツァイスの技術者らが講演した

板橋産業技術支援センター

■ 業務案内

計測検査　精密検査機器、環境・耐久試験機、成分分析機器等を設置し、ものづくり企業の技術力・製品品質・環境性能等の向上を支援します。

技術相談　経験・知識の豊富な技術相談員が、機器の操作方法に加え、技術的な相談におこたえします。また、東京都立産業技術研究センターの研究員とインターネットで対面型の技術相談も可能です。

人材育成　機器操作研修や分析評価の指導等の技術系講座を通じて、製造業を担う人材を育成します。

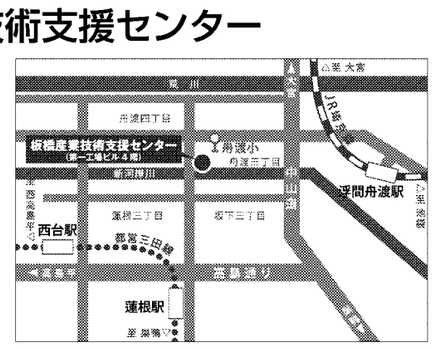
ご利用時間　**午前9時 ～ 午後5時**（土日祝日、年末年始を除く）

- 機器は、1時間単位でご利用いただけます。
- ご利用時間には、準備時間及び作業終了後の後片付けの時間も含まれます。
- 恒温恒湿槽、高温恒温器については、夜間・休日連続利用も可能です。

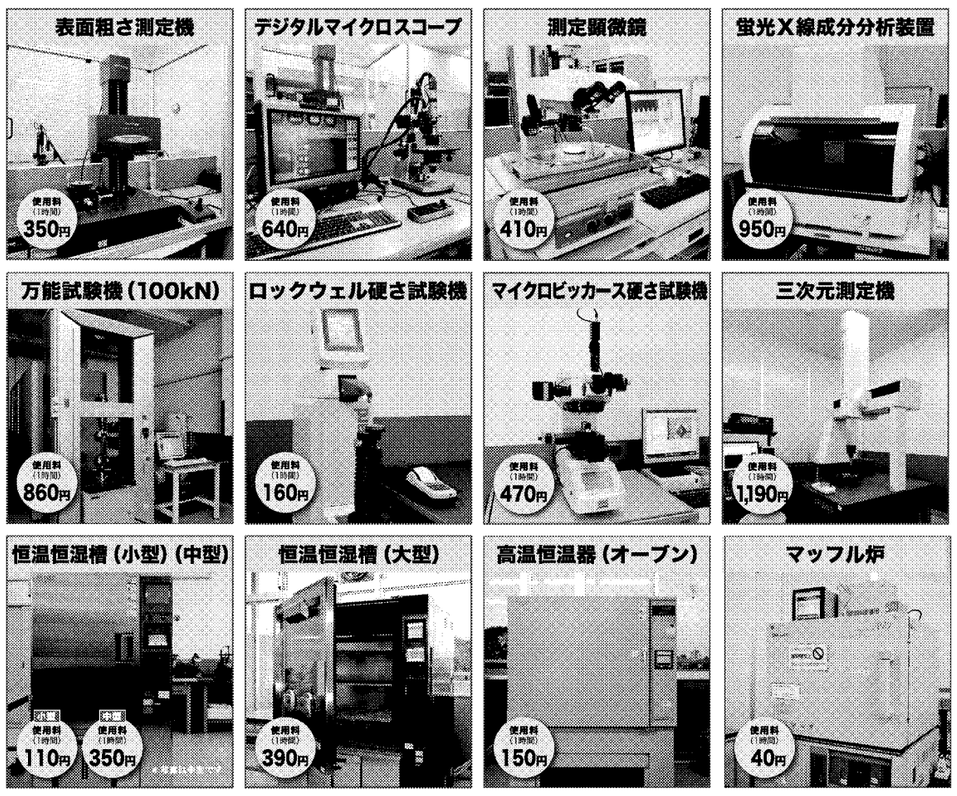
予約・お問い合わせ　**板橋産業技術支援センター**

〒174-0041東京都板橋区舟渡3-5-8
区立生活産業融合型第一工場ビル4階
☎(03)3960-2800
-2801
FAX. (03)3960-2802
✉ sg-senryaku@city.itabashi.tokyo.jp
受付時間：午前9時 ～ 午後5時（土日祝日、年末年始を除く）

ご利用にあたり条件がございますので、詳しくはお問い合わせください。



■ 計測検査機器



■ 板橋産業技術支援センター事業 第3回セミナー

発信型工場への転換

～ものづくりのアイデアがひらめくとき～

講　師：株式会社 新興セルビック
代表取締役 竹内 宏 氏

第1回「ものづくり日本大賞」受賞
NHK プロフェッショナル 仕事の流儀 2011年12月19日出演
株式会社 新興セルビック（1987 年設立）
17 年の歳月を費やし、廃材ゼロの卓上超小型射出成型機を発明し、第1回「ものづくり日本大賞」を受賞。独自性のある製品を次々に開発し、自ら市場をつくり出す「発信型工場」への転換に成功、その強さを発揮しています。

講演内容：
- 同社のものづくりの歴史
- ものづくりのアイデアがひらめくとき
- 知的財産戦略等

日時　3月7日[木]19時～21時（受付開始 18:30～）
会場　ハイライフプラザいたばし 2 階ホール（板橋区板橋 1-55-16）
受講料　500円
定員　80名（申込み順）定員を超えた場合は期日前に締め切ることがあります。
対象　企業経営者・従業員の方
お問い合わせ　板橋区 産業経済部 産業振興課 活性化戦略グループ
TEL:03-3579-2193
FAX:03-3579-9756
E メール:sg-senryaku@city.itabashi.tokyo.jp